

荒尾市教育振興基本計画に基づく平成30年度の取組み状況

基本目標①：家庭や地域の絆の中で、「生きる力」の基礎をはぐくむ

<総括>

「くまもと親の学び」をはじめ、「荒尾っ子の『できるといいね』」等を活用しつつ、家庭教育の重要性についての啓発と支援に努めた結果、成果指標である「朝食を毎日食べている児童生徒の割合」が増加しました。今後も、基本的な生活習慣を育成できるよう周知啓発などを継続的に取り組んでいきます。

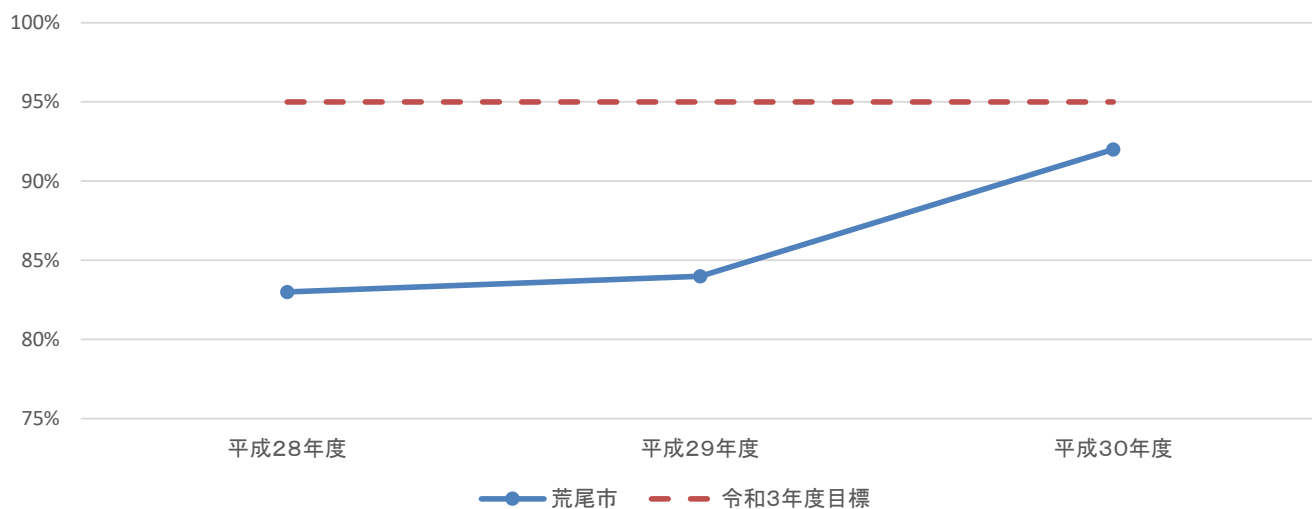
<主な取組>

- ・基本的な生活習慣を育成するため、家庭教育支援リーフレット「荒尾っ子のできるといいね」の普及啓発
- ・「早寝早起き朝ごはん」運動の推進
- ・乳幼児期からの読み聞かせに努め、家庭教育に対する理解と充実を図るため「くまもと親の学び」の活用

朝食を毎日食べている児童生徒の割合

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
83%	84%	92%	95%

朝食を毎日食べている児童生徒の割合



<主な課題>

・家庭環境など様々な事情により、子どもたちの食生活などの基本的な生活習慣の乱れが、学習意欲の低下、気力低下の要因の一つとなっている。

基本目標②：自ら学び、自ら考え、自ら行動する力をはぐくむ

<総括>

・前年度と比較してよくなっている点（水準維持を含む）は、学力学習状況調査の小学校、中学生の英検3級相当の学力の生徒の割合です。課題となるのは、学力学習状況調査の中学校は、前年度に引き続き全国平均を下回っている、「自己肯定感」に関して、前年度（H29）の水準を上回る回答になっているが、全国平均からすると荒尾の児童生徒はやや下回る結果であること、体力に関して、小中学校ともに県平均を上回る項目が微減であることです。よくなっている点については今後もこの水準を維持できるよう努め、課題に関しては、学校による分析と対策の実施について、学校と連携しながら、取り組んでいきます。

<主な取組>

- ・「メディアコントロール」の取り組み（インターネット等のメディア使用時間調査・情報モラル教育など）
- ・教職員の指導力の向上を図るための「授業改善アドバイザー」事業の実施
- ・「荒尾市教育ICT整備計画」の策定
- ・中学校の全学年での「英検チャレンジ」実施
- ・市内全中学校3校の普通教室等に空調設備の設置及び市内全小学校10校の空調設備設計委託の実施

全国学力・学習状況調査正答率

平成27年度		平成29年度		平成30年度		令和3年度目標	
小学校	全国平均を上回る	小学校	全国平均を上回る	小学校	全国平均を下回る	小学校	全国平均を上回る
中学校	全国平均を下回る	中学校	全国平均を下回る	中学校	全国平均を下回る	中学校	全国平均を上回る

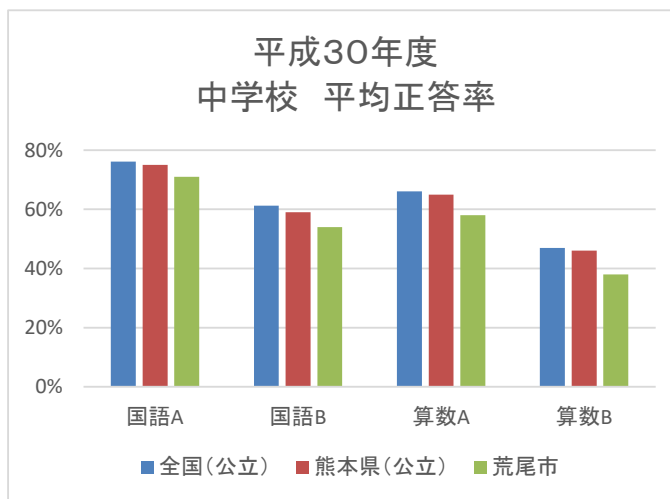
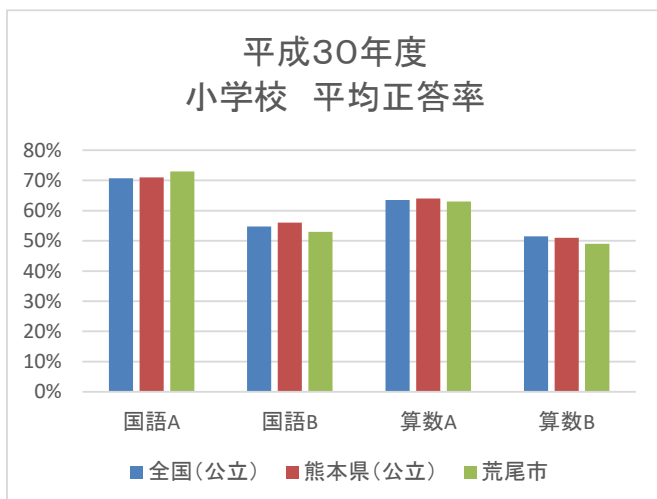
(参考)平成30年度 全国学力学習状況調査における全国・熊本県・荒尾市の平均正答率

○小学校

	国語A	国語B	算数A	算数B
全国(公立)	70.7%	54.7%	63.5%	51.5%
熊本県(公立)	71.0%	56.0%	64.0%	51.0%
荒尾市	73.0%	53.0%	63.0%	49.0%

○中学校

	国語A	国語B	数学A	数学B
全国(公立)	76.1%	61.2%	66.1%	46.9%
熊本県(公立)	75.0%	59.0%	65.0%	46.0%
荒尾市	71.0%	54.0%	58.0%	38.0%



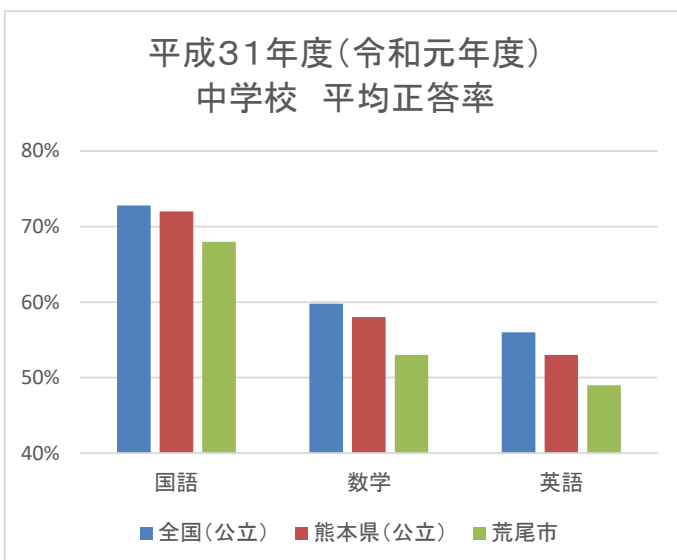
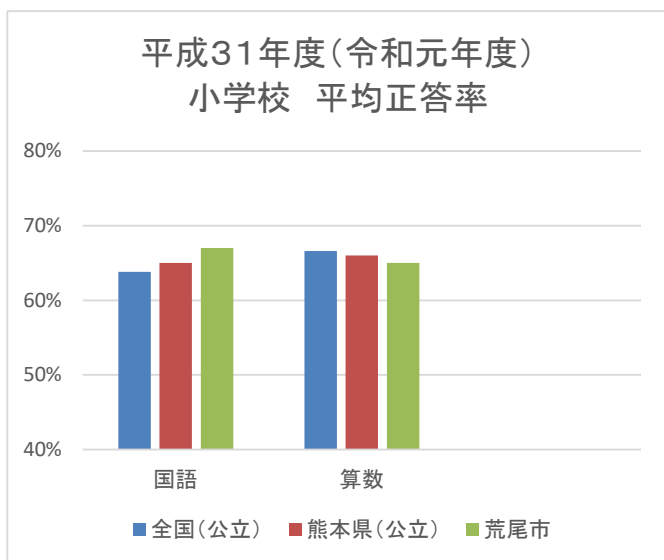
(参考)令和元年度(平成31年度) 全国学力学習状況調査における全国・熊本県・荒尾市の平均正答率

○小学校

	国語	算数
全国(公立)	63.8%	66.6%
熊本県(公立)	65.0%	66.0%
荒尾市	67.0%	65.0%

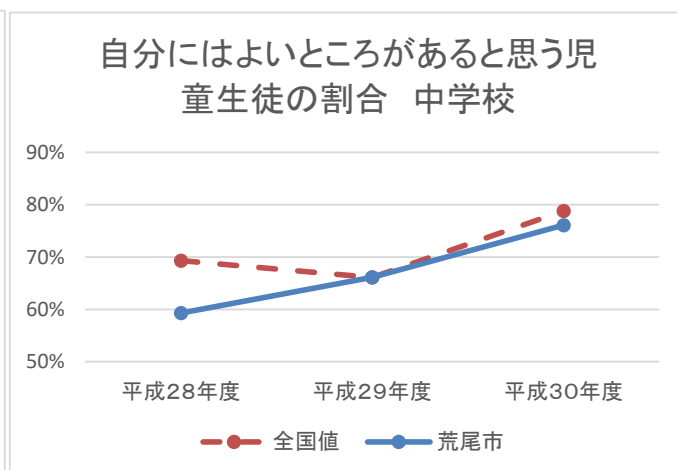
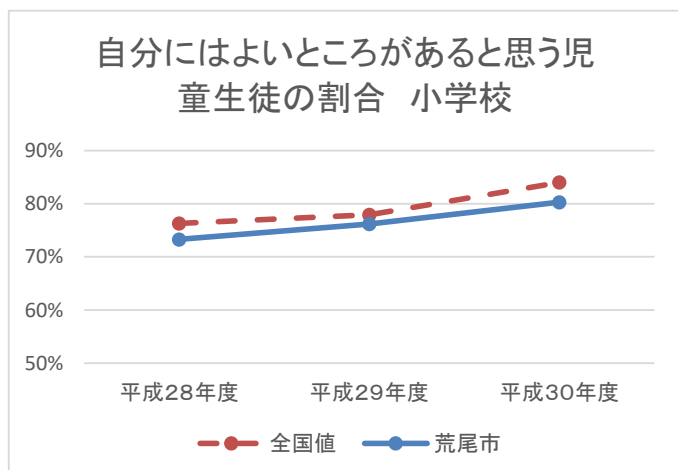
○中学校

	国語	数学	英語
全国(公立)	72.8%	59.8%	56.0%
熊本県(公立)	72.0%	58.0%	53.0%
荒尾市	68.0%	53.0%	49.0%



自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合

平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和3年度目標	
小学校	73.3%	小学校	76.2%	小学校	80.3%	小学校	全国平均を上回る
	(全国値: 76.3%)		(全国値: 77.9%)		(全国値: 84.0%)		
中学校	59.3%	中学校	66.10%	中学校	76.1%	中学校	全国平均を上回る
	(全国値: 69.3%)		(全国値: 66.1%)		(全国値: 78.8%)		

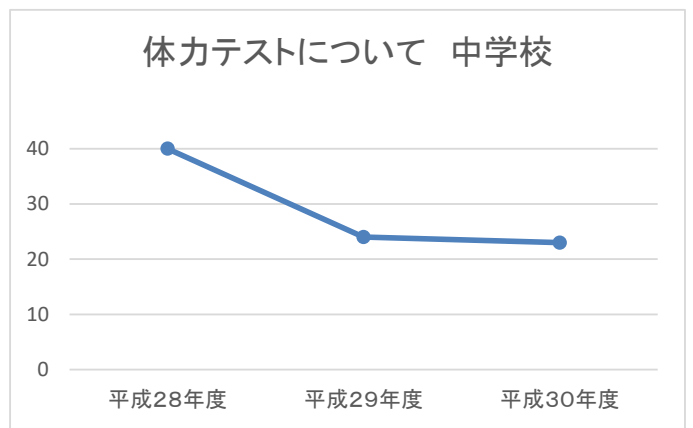
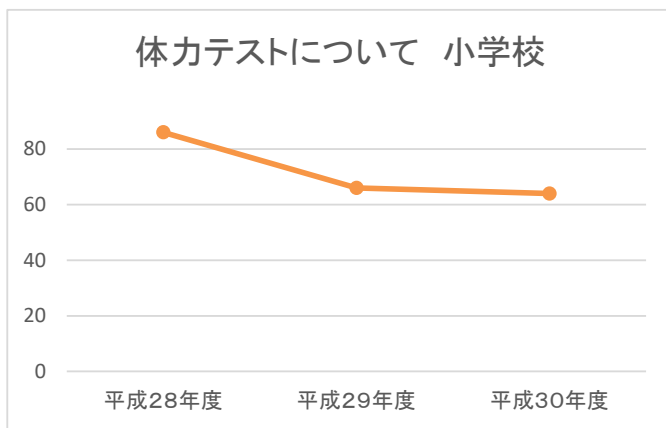


学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合

平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和3年度目標	
小学校	83%	小学校	86%	小学校	データなし	小学校	95%
中学校	81.4%	中学校	75.2%	中学校	データなし	中学校	90%

体力テストについて

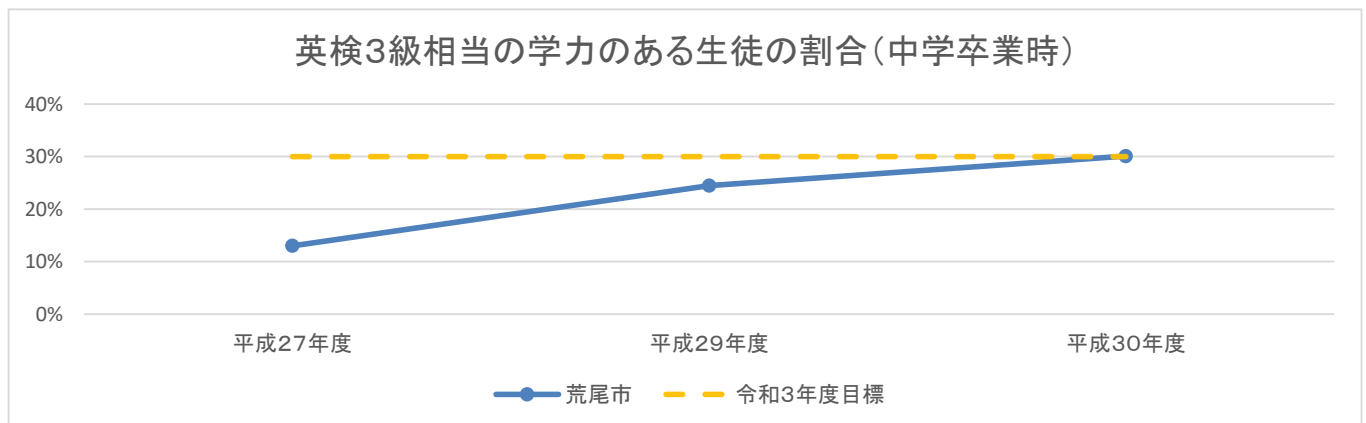
平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和3年度目標	
小学校	86/96項目で 県平均を上回る	小学校	66/96項目で 県平均を上回る	小学校	64/96項目で 県平均を上回る	小学校	全項目で 県平均を上回る
中学校	40/48項目で 県平均を上回る	中学校	24/48項目で 県平均を上回る	中学校	23/48項目で 県平均を上回る	中学校	全項目で 県平均を上回る



英検3級相当の学力のある生徒の割合(中学卒業時)

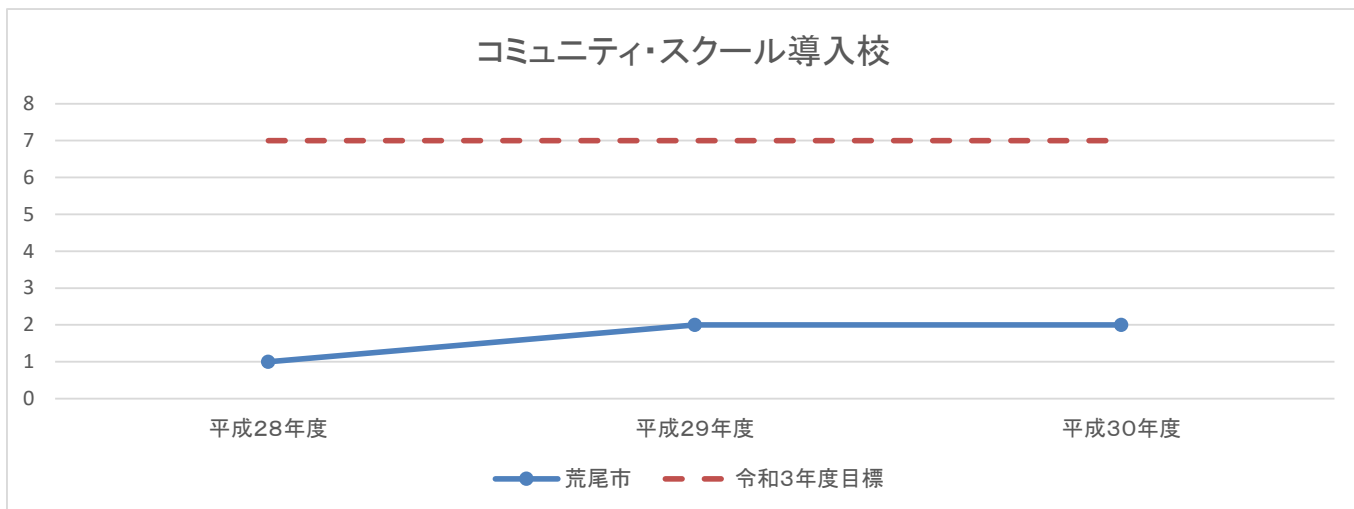
平成27年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
13%	24.5%	30.1%	30.0%

平成29・30年度は、IBAでの数値、令和元年度より、学校アンケート結果



コミュニティ・スクール導入校

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
1校	2校	2校	7校



<主な課題>

- ・メディア使用の時間が、全体的に他自治体と比較して長い傾向があり、特に中学生の3時間以上が20%もある。
- ・宿題・予習・復習を含めて、計画的な家庭学習ができている割合は、全体の6割程度であり、取り組めていない児童生徒も1割いる。
- ・学力向上のためのあらおベーシックの定着と英語力の向上（英語の日常化）

基本目標③：生涯にわたって健やかに学び続ける人をはぐくみ、地域社会における教育力の向上をはかる

<総括>

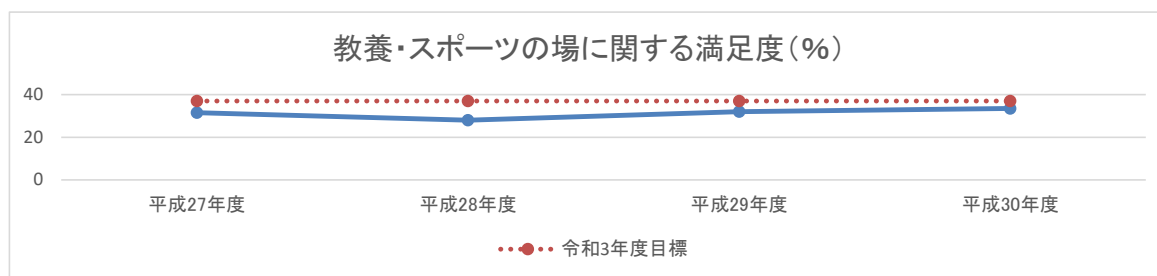
中央公民館・市立図書館・運動公園施設を拠点として、様々な取組を展開していること多くの市民が生涯学習・生涯スポーツ活動に取り組むことができ、教養・スポーツの場に関する満足度については、年々目標に近づいている。
また、学校と地域の連携・協働の取組も市内全体に広がっており、多くの地域ボランティアの協力により、年々活動内容が充実している。

<主な取組>

- ・生涯学習の推進（公民館・図書館を活用した各種サービスの実施、サークル・団体の支援、各種イベントの開催等）
- ・生涯スポーツの推進（体育施設を活用した大会等の実施、協会・団体の支援、各種イベント・教室の開催等）
- ・学校、家庭、地域連携の強化（地域学校協働活動、放課後子ども教室、地域未来塾）

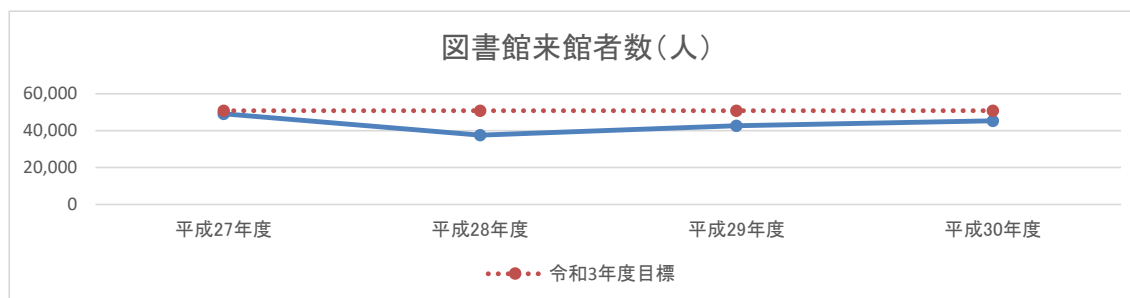
教養・スポーツの場に関する満足度(%)

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
31.5	28	32	33.5	37



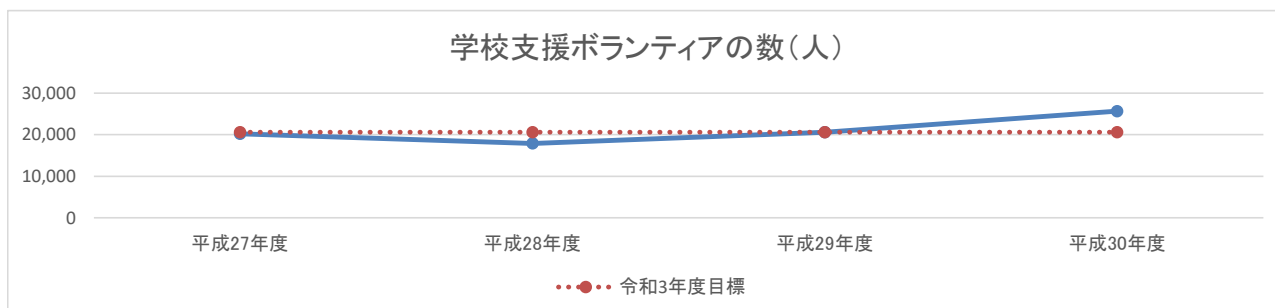
図書館の来館者数(人)

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
49,139	37,568	42,630	45,311	50,830



学校支援ボランティアの数(人)

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
20,194	17,882	20,580	25,667	20,600

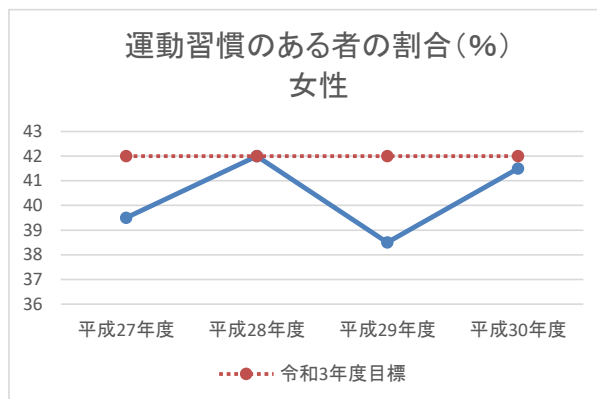
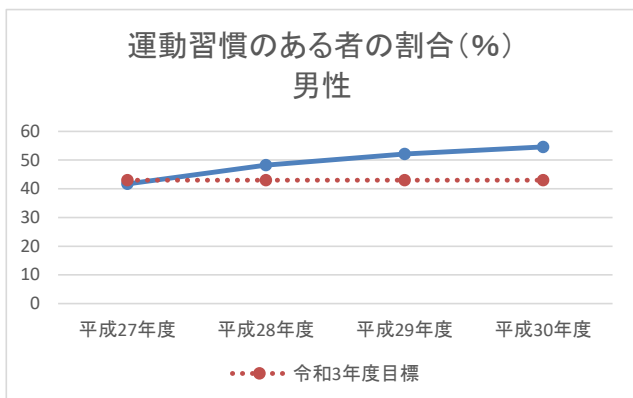


運動習慣のある者の割合(%)

【男性】

【女性】

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
41.7	48.2	52.1	54.6	43	39.5	42	38.5	41.5	42



<主な課題>

- ・生涯学習・スポーツ活動の拠点となる施設の老朽化。
- ・学校、家庭、地域連携の取組拡大に伴い将来を見据えた新たな人材の発掘や育成。
- ・運動習慣の向上に向けた、機会の創出・提供。

基本目標④：ふるさとの自然や伝統、文化を学び、誇りや愛着をもち、文化を通じた国際交流の推進をはかる

<総括>

市史講演会や出前講座等を通して、本市の伝統文化を学ぶ機会を市民に広く周知し、「郷土を愛する心」を育んだ。また平成30年度は次世代を担う子ども達が主体で行う「くまもと子ども芸術祭」を実施し、子どもたちが文化・芸術に触れたことで、本市の文化振興に繋がった。宮崎兄弟を通じた視察や事業等を行うことで、国際交流の推進を行った。

<主な取組>

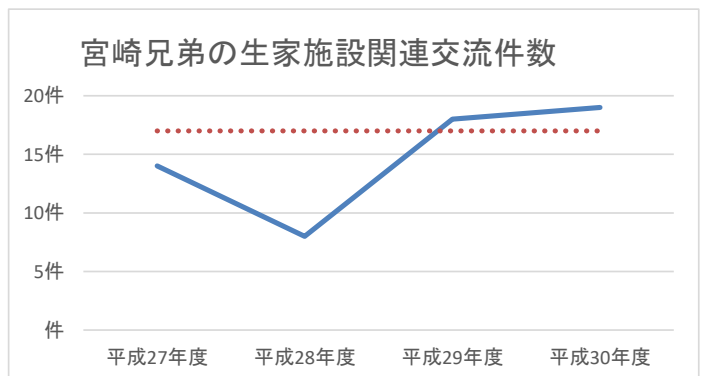
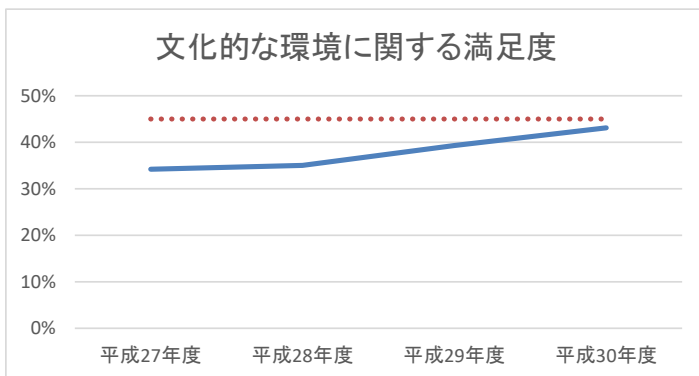
- ・ 指定文化財の補修を随時実施している。万田坑に関しては、長期的な整備・補修を計画している。
- ・ 市史等の講演会や出前講座等の実施。
- ・ 例年の市民文化祭に加え、昨年度はくまもと子ども芸術祭を実施した。
- ・ 宮崎兄弟に関する研究をまとめ、その歴史的価値を再評価するための宮崎兄弟研究報告書を発刊した。
- ・ NHKと共催で「新・BS日本のうた」を文化センターで開催した。
- ・ シンガポール晩晴園と共同報告書発刊について協議を重ねた。
- ・ 日中友好促進会議の事業として、伊藤伝衛門邸等を視察した。

文化的な環境に関する満足度

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
34.2%	35.0%	39.3%	43.1%	45.0%

宮崎兄弟の生家施設関連交流件数

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
14件	8件	18件	19件	17件



<主な課題>

- ・ 文化財保護及び文化団体の高齢化により、後継者不足が危ぶまれる。
- ・ 市民の国際交流への参加機会を増やすことができるよう、市内の国際交流団体等の意見を踏まえ、次世代を担う子ども達などの交流機会の拡充に向けた取組みの検討を行う必要がある。
- ・ 本市とシンガポール晩晴園との交流事業について、晩晴園と引き続き協議を重ね、学術交流を主軸とした提携から、多様な交流を視野に入れた国際交流を推進できるよう具体的な協議を行っていく必要がある。